

学校の教育目標	生きる力を養う「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
---------	-----------------------------

国が示す総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

学校の総合的な学習の時間の目標
1「ふるさと南葛西を愛する子供を育てる」ために、「多様な人と自然とのかかわり」を重点に置き、「地域」「環境」「福祉」「多様性の理解」の課題のもと、子供の発達段階に合わせて、単元を構成し、特色ある学習活動を目指す。 2「地域」「環境」では、葛西臨海公園などの地域の自然環境を活用した学習を他の機関とも連携を図りながら積極的に取り入れ、環境学習を充実させる。 3「福祉」では、障害のある人や高齢者との交流、体験活動を取り入れ、障害者理解に向けた取り組みを実施する。 4「多様性の理解」では、オリンピック・パラリンピック教育で講師を招聘した「出前授業」や講演会を実施したり、探究的な学習を推進したりして、人間尊重や生命に対する畏敬の念を育むことを目指す。

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
日常生活から、課題となることを見出す力。 探究的な学習の基礎となる、調べ学習の方法の習得。	課題について、資料や実体験をもとに多角的にとらえる力。 日常生活から見出した課題について、自ら目標を設定し、調べる力。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
自らの行為について意思決定をする力。 課題について調べたことをもとにまとめる力。	自らの生活の在り方を見直し、実践する力。 課題についてまとめ、比較したり関連付けたりして考える力。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
目標を設定し、課題の解決に向けて行動すること。 他者と協力して課題を解決すること。	自己の将来を考え、夢や希望をもち、課題の解決に向けての学習の中で、様々な人と関わるコミュニケーション力を育てる。

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	ともに生きる(聴覚障害者理解) 地域安全マップ	・自分の周りには色々な立場や状況の人がいることを知り、自他の違いを正しく捉える。 ・学校近辺の危険な場所などを調べ、安全について考える。
第4学年	ともに生きる(視覚障害者理解) 葛西臨海公園たんけん隊	・障害のある人との出会いや体験したこと、調べたことをもとに話し合い、発表する。 ・身近な自然である葛西臨海公園の生き物を観察し、自然について学ぶ。
第5学年	ともに生きる(車いす体験) 農業調べ	・体験を通して課題を見つけ、解決の見通しをもって自分なりの方法で意欲的に追及することができる。 ・伝統的に受け継がれてきた海苔すきの手法を体験し、学んだことを伝える。
第6学年	ともに生きる(高齢者理解、認知症等) 海洋教育(環境編)	・高齢者のふれあいを深め、共生を図る資質や能力を身につける。 ・海洋汚染問題について調べ、自然環境を守るためにできることについて考えをまとめる。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
福祉を柱とし、3年生は地域、4年生は地域と自分との関係性、5年生は他教科との学習と連携した学習、6年生はオリパラ教育を中心とした多様性の理解を主な学習活動とする。	・各教科との関連的な指導。 ・個に応じた指導の充実。 ・体験活動の充実、及び児童の達成感を高められる効果的な発表形式の工夫。	・ゲストティーチャーの活用。 ・教科を横断的にとらえるカリキュラム計画。 ・チームティーチングの効果的運用。	・評価の観点を課題解決、表現力、コミュニケーションとする。 ・個人内評価の重視。 ・学年を超えた系統性をもち、観点別学習状況を把握するための評価基準の設定。